



情報通

2010. June 6月号

発行日：平成22年6月1日

発行：東京税理士会
情報システム委員会

題字：金井塚 清 (豊島)

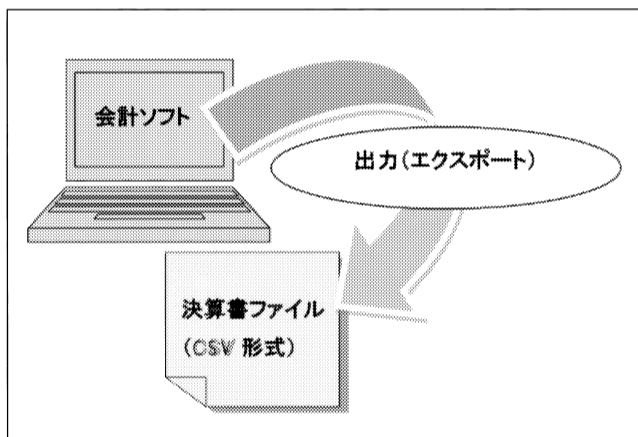
最近開催された電子申告に関する研修会

・会計ソフトから「魔法陣」へ財務諸表データの連携 ・表計算ソフトから「魔法陣」へ内訳書データの連携

電子申告は国策であり、東京税理士会の重点施策でもあります。代理送信による電子申告は税理士等のみが行えるもので、電子申告による業務効率化は大きなものがあります。単に電子申告だけで考えるのではなく、業務の効率化の一つとして電子申告を実践してください。

紙は非常に便利な道具なので、有効利用できる場合には積極的に利用するのですが、申告する場合に紙が最も有効な道具でしょうか。パソコンがうまく使えないから電子申告できないとか、得にならないから電子申告しないとか、様々な意見が見受けられます。確かに利用している税務ソフトによっては、不十分な点があることも事実です。

多くの会員が利用している魔法陣というソフトの場合、財務諸表を電子申告する場合に手間がかかることもありました。し



かし最近では会計ソフトのデータを効率よく連携できるシステムに改善されています。

電子申告をしていても財務諸表を郵送したり、どうせ郵送するなら別表等も一緒にし、結果的に電子申告していないケースもあるようです。最近開催された支部の研修会（以下「最近の研修会」）で、魔法陣による電子申告の効果的な方法が紹介されたので、その概要をお知らせします。

○財務諸表データの連携

魔法陣の法人税ソフトは以前から手入力することで財務諸表を電子申告することは可能でした。現在では会計ソフトから作成したファイルを介してデータを読み込むことが可能になりました。会計ソフトによっては表計算ソフトを利用する場面もありますが、基本的な使い方です。

最近の研修会では、弥生会計から決算書データをエクスポートし、そのファイルを魔法陣の法人税ソフトで読み込むという内容でした。特に難しい点はなく、マウスを利用するだけで財務諸表のデータを連携できるのです。

手順の概要は、会計ソフトからCSV形式のテキストファイルを作成し、そのファイルを魔法陣の法人税ソフトから読み込むものです。特に弥生会計という会計ソフトの場合、非常に使いやすい設定になっています。財務応援という会計ソフトの場合、魔法陣の法人税ソフトの仕様に対して不足な項目があるので、表計算ソフトを利用して項目を追加する必要がありますが、これらはマウスの操作のみで行える簡単なものです。

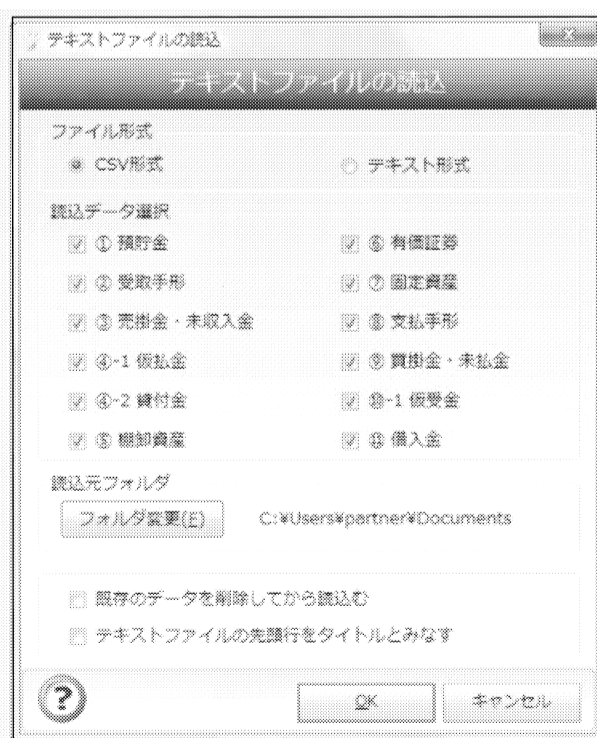
CSVファイルに帳票名、項目名、金額の3要素が必要なので、利用している会計ソフトで、決算書データをエクスポートできる

場合、一度試してみてください。作成されたファイルを表計算ソフトで読み込むと必須項目があるかどうかを確認できます。必要に応じて追加し保存することで財務諸表データが簡単に読み込めるのです。読み込めなかった部分は必要に応じて手入力になります。

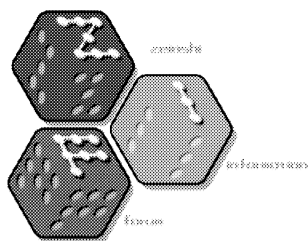
○内訳書データの連携

魔法陣の内訳書ソフトにもテキストファイルを読み込む機能があります。このテキストファイルの形式は、CSVという形式とTAB区切りという形式です。どちらもコンピューターでは基本的なファイル形式なので、多くの会員が理解しやすい形式です。CSVファイルは表計算ソフトでも利用しやすいですし、作成するのも簡単です。決算業務で内訳書のデータを整理するにあたって、表計算ソフトを利用しているケースは普通です。この時に魔法陣の内訳種ソフトで読み込みやすい形式で作成しておけば、マウスの操作だけでデータを読み込むことができます。

研修会では、エクセルの各シートに内訳書データのひな型を設定し、必要項目にデータを入力した後、各シートをVABを利用してCSVファイルを作成するものが紹介されました。内訳書データを読み込む場合、内訳書ごとのテキストファイルを作成する必要がありますので、それぞれのファイルを作成するとファイル数が多くなり管理しにくくなります。そこでエクセルファイルの各シートに各内訳書のデータを入力し、最終的にクリック一発でCSVファイルを作成できるようにしたものです。なお、未対応の内訳書は手入力することになります。



電子申告は業務効率化の一要素です。紙を少なくすることでスペースに余裕ができ、限られた資源を効果的に活用できます。紙面では限られた説明なので、理解しにくい点もあると思います。詳しい操作法等を確認したい場合、情報システム委員会が開催している個別の相談会等を利用してください。電子申告を通じて業務の効率化が進むことを期待しています。（情報システム委員会委員 矢崎 義光）



税理士情報フォーラム 2010

「税理士事務所IT化コンテスト」応募者募集

今年の情報フォーラムでは、税理士事務所のIT化を促進するため、事務所運営に関するコンテストを開催します。以下の要領で会員の皆さまからのノウハウやアイデアを受け付けますので、奮ってご応募ください。



●募集テーマ

事務所運営の効率化

●応募題材例

- オフコンからパソコンへの業務移行(コストダウン等)
- 顧客とのコミュニケーション方法
- 事務所IT化に関連した職員の募集方法、トレーニング
- 電子申告の導入事例と電子申告の利用による変化

●応募特典・表彰

応募者全員に業務に役立つ便利グッズを、選考通過者及び表彰該当者には豪華賞品を提供いたします。

詳細は東京税理士会会報「情報通」欄にて後日掲載いたします。

●応募締切

平成22年7月15日(木)

応募に関する詳細は、本紙5月号13頁「情報通」、本会ホームページ(会員の方へ→お知らせ)、ポスター及びリーフレット(本会、支部事務局配布)をご覧ください。下記まで電子メールでお問い合わせください。

●問い合わせ

E-mail johosystem@tokyozeirishikai.or.jp

税理士情報フォーラム2010 「税理士事務所IT化コンテスト」

開催日時 平成22年10月6日(水)午前10時～午後4時

場所 東京税理士会館本館 (渋谷区千駄ヶ谷5-10-6)

ITコラム

徹底的なベンダー依存による電子申告の修得

情報システム委員会委員
中野 敦郎(品川)

1年の最繁忙期である所得税確定申告が3月で終了し、会員の皆様も一段落されているこの頃とご推察申し上げます。ところで、日本税理士連合会が発行したICカード、いわゆる電子証明書の発行数は、平成22年3月現在で全国税理士会平均が67%にのぼっております。79%の中国税理士会を筆頭に、東海税理士会が77%と続き、お隣の東京地方税理士会が72%をカウントしている一方で、私達の東京税理士会は55%と低迷しており、残念ながら全国で最下位の現状にあります。

この要因は様々考えられますが、従来の紙での申告から電子申告へのシステム変更による、時間の消費や労力をなるべく避けたいという会員の方も少なからずいらっしゃると思います。私事で

大変恐縮ですが、3年前に品川支部情報システム部の部長に就任しましたが、就任前までは電子申告をまったくしておらず、リーダライターも活用していない状態でした。情報システム部長という立場上、「何が何でも電子申告」ということとなり、考え出した発想は徹底的な他者依存でした。つまり、自分ひとりで電子申告をやり遂げるという努力は極力止めて、財務や税務申告のコンピューターソフトを制作するベンダーに電子申告ソフトの使用法や手順を100%依存し、ベンダー会社の担当者に事務所に来所してもらい指導をお願いするという方法です。電子申告手続き中に生じた疑問は自らクリアしようとしなくて、専門の担当者に繰り返し連絡して問題の解決ができるまで作業を行いました。電子申告の入力から送信という作業はある意味でワンパターンであり、流れを「丸暗記」して慣れてしまうことが肝要と考えます。まさに「習うより慣れる」の精神に尽きると思います。

先日の所得税の申告は、私の関与先全件を電子申告で無事終了しました。本年は、法人税の申告も100%電子申告をする所存であります。3年前には考えられない出来事ですが、電子申告の作業を重ねれば重ねるほど電子送信での申告の即時的終了や紙の省力化など多数のメリットを感じます。どうぞ電子申告を始めていない会員の方々も今年よりご自分のベンダーを最大限活用して、システムが立ち上がることを切に祈願いたします。

情報システム委員会 個別相談会のご案内

とき 6月21日(月) 13:30～14:20

ところ 東京税理士会館 1階打合せ室
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-6

※会員、事務所職員、どなたでも結構です。 ※無料

情報システム委員会では以下の日程で、会員・職員向けIT個別相談を行います。電子申告に関する相談を始め、パソコンを使用した業務全般に関するご相談を承ります。初歩的な質問、些細な疑問でも結構ですので、どうぞお気軽にお越し下さい。(要事前申込)

相談ご希望の方は、事前にメール・お電話でお申し込みください。

TEL 03-3356-4467 (東京税理士会事務局業務研修課)

e-mail johosystem@tokyozeirishikai.or.jp

※タイトルを「個別相談希望」として下さい。

(記載事項①支部②氏名③相談内容(簡潔に))